

仙臺船魯齋筆流聞書

文化元申子九月長崎浪工内江表
床凡出字

津田文庫

文庫 1

1841



仙臺船魯齋西漂流聞書

つだ文庫

早稲田大学
図書館蔵書

陸奥国仙臺領牡麻郡石巻裏所米澤平之允平松
若宮丸沖松頭平多房拾六人系同所領主江戸廻米子二
百石積受寛政五年且上月廿七日石巻川口出松沖合テ
逢難風檣切捨揮ラ痛洋中漂流同六年寅九月十日ヨロ
同漂着イ冬松頭水主炊共拾六人之内松頭平多房外元
都合三人此国テ傷死ス残拾三人之内九人彼国ニ留リ外人
コロシヤ国ヨリ八拾五人系ク松頭平把前国長途迄水送石原
保三年亥六月ヨロシヤ国都ヲ出テ丈ヨリヒセリホカタニ流所

010190617640

着並所方出和文文化元子九月六日長崎着和同三年寅月
生田仙臺領官城寒風澤島工吊田致津太夫左多富而
人分返之兼以教元記一時兼以事無由座以吊公用テ右
島工逗留致以舟四月禮之間折之兼會致物語之内
書田川間俗言甚拙後見人用捨可也者之

文化三年寅夏

1841

一 寛政五丑十月廿七日奥州仙臺領石巻川口出船若宮丸
船頭平多富、教合拾六人、平多富出船後以折一旦東浦
入洋日和未侍同廿九日戌亥、噴風より同折を登り所
突合俄より雲より早風大西丸となり甚随以舟岩城領云
按廣野とあり不し破をあらし一亦以船掛法石右十二月朔日
辰巳風強吹り舟より波立之甚成け而より船後巻揚國元
泊航之仕心御業も之夜九時中風より雲より江戸廻順風若成
船中無組一統も統揖を重之を也以折又之辰巳風より成
持より大波立船ハ横より成能く可西渡程高波より志是
糸組一同舟中際りも存程も本内景荒波を楫り折は舟
船ハ横成頻に波打込湯にけ折る破船と見見し舟中無是

惣櫓ヲ代換免穀穂米花ノ草直不持ノ事及是亦速志
列於船尾怪免毒花ノ米沖増大風と成去波船の
上を歩紙ノ船ノ如く成只今大地ノ舟ノ如き道
一月舟をうひて月常限りお働りは何共之波振も之推人
下回船切該船ノ之波改會限りお働り何ノ難渡
無後沖原主像出来八百依程も列於此舟ノ如く
凌然去成少月舟二日又下大西風法正成去言波打船
中。交ノ打込二日也旨日旨日風言正吹流東南山山も
一切ノ事見を沖とも難去分。逆も人ノ力不足及新ノ船既
和宗組一同大祇宮沖務船五本船を載し本百七拾里沖
とく本船計上も一同たし何玉一流舟もも船角船ノ事履

振ノ事一由事申一船格致西風言正流船在年此
東風吹下逆沖合海一命達たむちり二言為るも
下事一物中思ひ一子諸神酒佛一祈誓致し知ノ事一船
船中一高波多事也振一困一八日ノ事一命一
難事一由も一一同古六日大風吹立既子被船可致船既
七日限りの一命と存打控並り一先在在船船を流し流り
如流た河程りも同かり一船名も不見一多一後成或房
為一各々也一檢細由事像教結舟浪一上船既大祇宮由板舟乳波
又小田園ラ五本船或百七拾里沖中ノ事又分宮正月十日大風言波
有ノ船一艦ヲ被至つヲ為一又櫓ヲ五本被船中流り
三正尺程滑り至是波出一麻細ノ事船を被り不浩卷又

匡圖載はる志又百里沖と有之、三月十七日と漂在也、
一滴も無く相集皆くあり飢ひを憐み難儀之上く難儀
おぼり、
九名く才成、
味て解よあり、
有念の桶お并立存下情あり、
感應云、
雨、
又、
匡圖左、

見受、
半、
方角、
波、
相、
皆、
又、
以、
能、
何、
と

存候と云はば此の人家たゝる所を存候自南頭風
 付の意向時又雨を不徳を押し辛日斗り人皇成身形三月
 二日と是日人々振成形物意同見御に伝馬船を寄て
 能く見止し人々此の形を疑ふに染もて既に髪を乱し
 衣類の鳥の毛想身を生くる振も存候しはを念し全人々
 の秘見方是必鬼形可成御進は是鬼ヶを命せ惶三日魂を
 消迹去んは是行先を不知如何人々尚悲ししは和者
 初歩いししは不道も元船を去りし上を令限し陸揚亦
 毎く岸の方より鬼々相集り相集り外政方も毎く皆々
 悲憂中國の思ひは親見方妻子も只地を教をん
 公月音又伝出は和者有る彼國の人男女も女
 振は女人集り者々和波は和船志をりしは存候はよ
 船心付陸海中ト善悪同國同は不陸の方更及し中
 何し神意は伝船岸進ク勢も不能く見止し鬼々毎々
 人々傳は角々等々斗言云伝は一切を我方は去彼人々集
 傳馬船を破りしは兵也て取れ神も有るは是一云も其
 又け方々中も先も一向を在るも只存方斗推量致し
 今く振は和衣の内は女とお丹しは染しとの水杯持系或
 焼魚も持系これ男の刺もは集演急て火成焚火成
 是より姿形と身相遠く也心は此把致其例は是
 安堵ししは傳は姿形と心は振群も未達実性も不中し日

中人と格別を以て承服及は譚々世所を蕪生波の
心持を其其夜にけし夜を明に世に人々を
任事は為誘引は家作未と毎に土地に官の地
抄本を土砂系本に枝をそと根吹恒在と
得る魚を歎く一胃が如山く又く是より再
食物を穀一粒も之を魚を歎斗り食はけし
世に年も薄り無縁を成るに抑り二
食より波の如く恥取平高病氣は出
此は先醫師兼用と申すも海に
波方も多し然るに六月八日は海に
一月は海は五月より六月に
別は所へ葉の中を三日
男主人来り何れ也と
留上凡く教也此方
平立手扱はけ方
立るるるの事と
然其時日わつと
海増る急う入取扱
折人自たつと
来り商人船居所下海

一月は海は五月より六月に
別は所へ葉の中を三日
男主人来り何れ也と
留上凡く教也此方
平立手扱はけ方
立るるるの事と
然其時日わつと
海増る急う入取扱
折人自たつと
来り商人船居所下海

但^ニ初ノ揚タル所ハ島ニテ中^ノ穴ヲ垢^ニ居^ルト云^フ衣類ハ多^ク
ク毛^ノ軟^ク皮^ヲ用^ル也^ニ瓢^形ノ赤^ノ洞^ノ洞^ノヲ用^ル椀^ハ海^中流^來
材^木ヲ彫^用ル也^ニ食^食支^支ハ魚^ノ獸^ノ斗^リ潮^ノノ^ノ黃^利火^ノ石^ノ漆^ノ
又^ハ天^火ヲ用^ル奉^有頭^ニ包^ニ後^者カ^リ一^丈六^尺第^日本^ノ
一^ノ言^人ト云^フハアリ^ト云^フ世^島ヨリ十^カツカト云^フ所^ニ丑^寅
ト云^フ乃^法六^七八^里有^ク也

十^カツカト云^フ所^ニ丑^寅一^丈六^尺第^日本^ノ
人物^右同^様ヲレテ^ライ^ツケト云^フ所^ニ丑^寅一^丈六^尺第^日本^ノ
代^官來^ク支^配ス但^シヲレテ^ライ^ツケト云^フ所^ニ丑^寅一^丈六^尺第^日本^ノ
島^後所^ハヲ^ク寸^ト尺^ト云^フ人物^皆同^海中^ニ獸^多有^アサ^ラシ

ウツロク^ク類^世皮^ヲ買^上ニ^ラロ^シヤノ^般ノ^商人^船ヲ^般來^ル所^ニ
食^物ハ^魚斗^ニテ^ハ鯨^者多^ク世^傳ニ^シ一^丈七^月ヨリ^卯四^月迄^迄
運^出ス^ル一^ノ高^人船^ノ人^ノル^日本^人ト^遠魚^斗斗^會物^ト
被^ル所^自物^ト人^ノ教^色也^ニ惡^友相^來來^未世^島ニ^凡三^年前^前
運^出諸^諸ノ^皮ヲ^買求^ホク^諸國^ト賣^渡ル^所也^未運^出
所^ノ中^ニ今^ニテ^ハ年^も運^出ス^ル一^ノ高^人船^ノ人^ノル^日本^人ト^遠魚^斗斗^會物^ト
厄^作波^トノ^日本^人也^人も^助命^有ク^買友^運夫^分獸^皮ト^ト
交^易ヲ^止其^私私^ヲ拾^去人^ヲ索^知四^月四^日世^所ヲ^出船^夫ノ^不
道^法四^百里^余丑^寅ト^走を^世私^頭志^志優^深切^心ヲ^以
吳^洲珠^ニ世^界ニ^人鬼^ハ世^是ト^中信^口通^下存^ト安^ハ振^夷

人同ヲロシヤ國ノ都ヨリ世所迄道恒凡九千里余之
波濤ヲ凌交易ヲ求テ日本人ヲ助テ高内モ半途ニ波ニ圍ニ
降リ助送り呉ルヲ憐ルカキ本國ニ神仏安返來令下
有テ亦ハ波也助レトリスルニ程有輕夕尚モ船底ニ掛ル
致也

一サンバンビヨウエ知四月廿五日着世所ニモヲロシヤノ代官來テ
配ス世所又海ニテ著六日附日輪船ヨリ入制限東ニカラテ
早赤雲ノ空ほの〜ト云々む形ノ〜ト云々〜ト云々何故と
世所新世所ニ世界ニ北よりきたる國在日輪南ニ乗リ
片あり行及ニ陸を西南ニ向道ニ新所〜ト極々云々あり

翌日六日世所出航〜トアミセイツカト未申ト走世所恒十三百
里余 ツカト云ハ日本ノ都ト云ト同ナリ 世所先年勢別白子幸太夫船漂流三年
世所ニ居由兼出ルモノ何ヤあり物表ニ張來一同落海致也
史中リカムサツカト 甲酉ト走道法子ニ百里余トトカカ
サツカトハ船付不中カヲホコツカ遠子或百里余成テ走終
ヲロシヤ代官支配ノ由世所下六月廿八日着ス世所濤ノ内
川中船ヲ系込諸國ノ商人船積致を家致三百軒有リ
家作テ了本ニテ他ヲロシヤ國ニ海リ來ル材木ノ中世所
モモ定船使を助テ身あり但ニ材木ヲ折ニ但其上材木
ヲ并ハ土砂ヲ式下斗厚並小家組ヲ致厚板ニ極根ニ并

能者ハ石造テ致丈土地を掘庭分石ヲ積上里地致
其上柵ヲ組上家作はる事ハ悦きこのの事ニ違リ能
もの石ヲ築上致多幅ニ守位ニ尖を連一太女を
並居いこの世守ハ大根少念人秘ぶおれりこの好
牛房茄子と致ハ一切おせせす世國々人ニ世世腰ヲ掛
夜ハ床之上ニ身在具ハ表四組紗ヲ物表ハ敷ニ居
身高位々人モソウフリト云又中ヨリ下ハ鬼ニ成リ神
おと致スむ鳥ニ毛抜入ん中厚サを尺半ニて林ニお温り
柵ハ夫婦二人揃ニとみ定法ニ大獨りとのハ長き人ニ柵ヲ
名ニ柵長短有ニ是國法ニテ又悦性ニ妻を侍子ニ能ク

家業を元トシテ夫婦中能ク命存命長キ柵ヲ并ハ衆ト
帝王ヨリ勅定を必形下也
縁造ニ時ハ奇ナリテ和尙ヲ敬造ト思ヲ男女和能形ハ
乃モ兩人ヲ和汝此女ヲ貫一生連係家業ヲ送々ハ思ハト
同男答テ依ニ通リ世世女房ニ致度下致能ハハハ又女
を和テ方ハハ男ヲ夫ト致一生貞ニ守ルヤハ女答テ
依ニ相守度ト致テ時和尙相答ル向ハ何ク唱テ酒ヲ出シ
酒との愛其上ニ盃の酒女ニ吞飲したる酒ヲ男ニ吞飲男ニ
吞飲したる酒女ニの事也男ハ三相保其日夫ニ答テ
和音ヨリ親親明友年集四日ハ様ニ振舞をて而

多入あるに年より中一人生く時ハ名也人ヲ名親ト
おれ其人ノ名ト実父ノ氏字ト一字ト取て是ト法ヲ射
名付ルノ同ノ風俗ノ也亦お痛ク主ノ名モヨロイツノ
ニカトナ也

一 夫婦ニ申夫死シハ妻ハ一生未タ不持又男モ月以テ指身ニ

お奉り着生涯人ノ文リ下モサニ思短枕ト字名スト

一 正月ハ元日斗リ酒肴ヲ祝フ之又年祓ト云テ出生ク日ヲ

男女共ニ持シ布祝ナリ

一 糸ノ中合セ極月大晦日ニ云糸ヲ吞ミ買潤元日洗糸

ト云フ大神宮ノ御祓英策徳神ト相傳モ御徳神別

船魂神トお佐ハ右親少女ノ糸淺妻ニ染ク又お備

刺見ル糸ノ向文ノ尚ヲ信スルハ口拾文ノ買潤ハ糸モを粒

モ懸シテハ夫モ糸を在國ナリ厚リハ糸を也形を並ニ

也を大病人扱ハ糸ニ煮食サセヤハ糸有る者ヲ用ル

ふ付ニ糸本用御直尼ハ糸國糸海山糸ノ思ハハ御

心細ク在ハ世所大川有クニ日路往川上大神祀有クハ

行クノ魚代漢日奉ク奥トハ遠ハ異敷ニテ影モ懸成ト

一 醫師ヲ病人代席紙ノ耐煮薬一切不用糸藥ヲ口門ヨリ

指入ル乃病甚クハ口門ニ糸管ヲ入テ吹込席紙ホ

世國ノ人男ノ大者ト大者ニテ凡ニ大者後之女ハ也短ニ

衣類ハ巾以上ヨリ高貴之人ハ日傘、唱高、帷、美錦、云々
物ヲ思ス又巾ヨリ悔リたりトテ珍貴トシ本綿、浅着、云々
巾ヨリ以テ人ハ高車トテ用ルルヨリ至リ本綿、甚大、云々
二日天、種方、世間、云々、三枚、位、テ、用ル、上、本綿、ト、莫大、高車
ニテ巾ヨリ下官、人ハ羅紗、天、種、織、類、及、股、用、也、云々
以テ、種、織、云々

一 代官所、テ、下役、正仕、者、成、サ、ウ、ト、云、是、ハ、日傘、且、燈、
又、カ、サ、カ、ト、云、者、有、是、ハ、少人、同、仕、之、役、人、ナリ、世、有、種、織、
之、の、一、腰、帶、鞆、ハ、麩、之、毛、皮、ニ、テ、言、官、之、人、モ、鞆、を、本
指、不、是、ハ、金、銀、指、之、以、次、ヲ、云、之、有、指、物、ナリ、女人、上、下、草、草、

一 揚、掛、ハ、金、銀、之、巾、又、者、水、晶、之、巾、事、物、云々
一 日傘、人、件、間、内、儀、高、ト、者、ハ、金、言、求、高、賣、初、先、お、真、
利、ハ、致、之、ル、身、ヲ、存、望、思、心、云々、初、メ、善、法、日、雇、人、是、
幸、方、上、河、邊、師、ト、者、取、法、美、ト、細、細、云々、何、事、モ、保、大、
後、海、の、仕、業、網、ハ、日傘、同、ク、浮、木、丸、ク、竹、筒、之、人、ハ、仕、業、ハ、
何、の、事、モ、ぬ、云々、物、業、仕、業、ハ、何、の、事、モ、一、日、の、者、モ、云々
云々、カ、ト、体、モ、云々、日傘、之、人、ハ、ヲ、ロ、シ、ヤ、之、人、の、凡、之、人、亦、種、織、皆、
初、ハ、巾、世、前、云々、年、者、モ、在、在、ハ、持、持、方、ハ、代、官、亦、云々、其、日、
以、似、合、ハ、種、織、之、路、云々、云々、上、下、モ、衣、類、甚、後、云々、後、海、世、也、
無、一、云々、下、並、事、亦、云々、羅、紗、天、種、織、ヲ、突、洞、着、用、後、云々

其月ニモ羅紗ハ荒仕業致ルモ亦夫有るもの左邊迄
ハ三着用返下匠國ニ掛ケル通リ

一 寒中ハ想為ニ鞆皮ヲ着テ天窓ヨリ鞆込梳皮ヲかむり自
鼻口斗リ穴ヲ吹ケ寒ニ南リル所ニ也黒クお成ニ腐ル左葉
葉ぬりて其患ヲ除ル為角寒中ノ凄大切ニ法ル好三年
春夏長業ニお申ル時ニはしりて一徳ニ云ハ

一 家ニ内ニ寒氣ヲ凄ルハ産費一間ノ長サ一呂半格定
程ノ高五尺位尾ニ格ハ至極ニ上ノある物ノ火ヲ物交
格共尾ノ燈ニ燃ルニ寒氣ヲ凄ルニ格舞有る
ル節ニ客来前ニお申ル御付法ニ事ニ薪ニ格舞有る

一 此節ニ客来前ニお申ル御付法ニ事ニ薪ニ格舞有る
此神官御後秋王神國元出穀船中此後此節ハ此極下
ニ和大切ニ事お申ル至極ノ節ニ此節ニ平ノ左方ニ返
キルヲ

一 時令ノ日本ニお用ル中時ノ五三月以テ漸ク十日有る
世界ノ氣ト云共ニ此中松ト葉物等ニ胡カを綿入位ニ
ニる七月迄ヨリ門ノ氷初メハ

一 客来ノ時茶碗ヲ茶基ニおきテ客基位取客吞
時ニ茶碗ヨリ茶基ニ明テ蓋ニ春ニ基ニ四ノコトある物
世所ハケ年所リハ内ニ見列ノ字列自然ニ云々此節也

いり半切之と下は中は在旅に衣類トテモ毎々日本ニテ虫
除薬ハ銀香之類ニテ入るトナリ其ノ中ハ如長湯ニ
右ニ出いり一木板ニ強多ニ懸掛スルナリ南村ニテ高連夫
知り金子ニ在りトナリ其ノ中ハ如長湯ニ
右ノ板ニ在りトナリ其ノ中ハ如長湯ニ
右ノ板ニ在りトナリ其ノ中ハ如長湯ニ

一 一人車夫ヲ不持以不有月ノ中ニ挿入ル上ハサテモ
片板ニ有リトナリ不相解ニ時ハ白キ衣類ヲ着テ床
入リテ翌日其ノ西親嫁、衣類ヲ不持以不有月ノ中ニ挿入ル上ハサテモ

一 延大車後院トナリ是ハ新和國ト云テ控志也
一 ツロヤノ人ト云テ有婦人懐妊ニテ月滿テ出産後
一 乳一切ニお子共ニ育ルニ牛ノ乳ヲ器ニ取テ煮テ指振ニ物
包乳房程ニ指子位ニ為取育ルナリ又牛ノ子ニ煮テ移テ
指子ニ有リトナリ國中一統ニテトシ

一 葉ハ極上ノ一人ノ葉ヲ吾時牛ノ乳ヲ取テ吞ル
一 火籠ハ何國モ同様ニ有リ國插テ火籠トテハ湯かきルカ
自下ト火事ハ出来出ルト史友ノ属ハ有リ知角石ヲ用テモ
至性合ニ相見ルト大家ニテニ階ニ火ノ三階ニテ不知
有リ木能ニ家ニ有リ火事有リニ解出ルカニ有リ

ありて顔顔ありて深と顔顔あり日本テ作ヨリあり勢ありて
怒角日本人の性ヲ好ム此一稔ヲロシヤ人の眼中人見テ怒
色モ甚悪シ日本人の眼中清ク怒色尤黒ク光汗ヨシ伝
怒角苗並建以子居もの多を扱とも其國ノ家門ニ入
派組多本毎々日本人深流ヲロシヤ國ニ留リ妻子ヲ持其
子孫ニ由テ来リ集親ノ國ニモ獲テ也テ物持来其
者共余相名よ

一代良所ヨリ日本人ノ急キ其トド中ハ何れハ何れハ通
り今度都ヨリ早稲脚至本日本人ハ世用ニ急ナリ
道中至夜ハ夜ありて高ノ中ハ帝王ニテ前ハ

中ハ車リハ行明日出立テ改辰江中後ハ夫ヨリ皆ハ
其後リ出立テ用意又ハ世所ハ八年も所ハ路ニ起テ改
ハものハ教多其車夫ハ唯ハおいハ一備ハ具ハ形見ハ
た高るも酒ヲ賣ル者高るハ小麦稈賣ル者ハ酒解ハ
其集別ハ世活ハ長ハ人ハ一ハ海橋舞ハ別名舞ハ
神ヲ好トハ其下道中用意ト有テ世設所ハ車ニテ其
車ノ上ニ箱ノよハ其物ヲ並其箱ノ内ト私共二人ヲテ車人
教ノ順ル右ハ車左波ハ馬ニ足ツテ引之登更引テ宿港ニテ
通るあり案内ハ役人内車ニ乗テ同及セハ一車ノ子
りハ飛食物ヲ煮ハ解ヲ用意ハ一解ヲ食水ヲ吞体ハ

一 夢をふけイリカウツカヲ出立清美清花五人を乗車し踊
宴聯勝と云ふ痛由テ遠方より進も叶ふ事内
役人其由中上自身達を願テ無是れ付不ト兩人ハ海軍
に定命海テ出兩人ハイリカウツカエ由リニテ本トボウリツカエ
及法凡日本ノ道ニミテ四十五里別トホヨリツカ代官來テ
支配政由世所ニ降斗取ル毒を飲ム歎ク皮極上物
出所ト海リル毒殺千軒斗有ル也

一 ベリヤ代官支配之世所ニテ炭ヲ燒是炭木ハゆを石
燒テ炭ト成ル由海軍より復ニ而ト者麻疹ヲ流行
ル計トシ各持け所ニ海軍ハあけ者只五人海軍ト同毒を

一 此種は古くは毒物何ともはるゝやうに傳ふ疾毒は海軍に
なるもふけはト暇もさう相本急病と云ふ毒を
只毒ヲ掛別レヤ中ノ死別トナリ悔リテ歎クあるは是れ
一 ガサニ代官支配世所毒殺千軒程有ル中至夜宿徒ニテ
通リ道半ニ急キル病ト毒を飲ム自掛リル也
一 ムスクロ世所ハ日本ニテム寸コビヤト唱ル不ト云性古ハ世如都ニテ
有ニ由織物上品出ル錦或ハ羅紗天竺織其外法織何れも
無ニト云ふや御小都ニ移有ル世道中希ニ稀ニ毒
花ノ地ニ世所ニ大キ本陸上地下毒有キ一自然ト埋リ
外ニ地ヨリ余種海ニ由リ石垣ニテ有ル也其内ト下リテ

和之相見下

一帝王之御名ハヲリキア^ルタ^ラウ^ラ市コクタリト^ル由私^ニ在^ル檢
人直^ニ在^ル由^ハ出^ル拜^シ礼^ス宮^中ハ^ハ教^多官^人烈^ラ正^ニ威^儀
者^等お^ハ法^王様^ノ傍^ハニ^コライ^トロ^イヲ^サノ^ウト^云人^陪居
是^ハ至^テ官^ノ人^トお^見之^ル日^本之^國白^杯ト^中仁^モ有^之
ト^中仁^先年^世國^下出^流キ^レ水^之内^ニカ^知有^ク者^人
世^國之^留り^別日^本通^使之^所抱^{タル}由^ニテ^陪居^キ帝王^ハ日^本
曲^示之^欺本^物之^腰ヲ^掛取^テ法^ノ儀^ハ由^信之^も是^為官^也通^使
大^勢兼^指各^臣同^席之^帝王^ノ外^教多^ク官^人ハ^陪居^キ者^也

私^在十^八之^皆之^膝ヲ^折在^シ通^使之^人石^抄立^下私^在之^帝王^ノ
佐^車之^正仁^取海^東日^本陸^奥之^者共^車由^登之^幸世^國カ^シ
流^來リ^テ海^東之^船ヲ^用意^イタ^ニ本^國ト^送リ
船^中之^變又^ハ由^國之^法ト^作有^ル儀^也是^ハ友^ウウ^ツカ^ト
姪^ニ減^ム之^も不^出之^有テ^皆之^顔ト^顔を^見合^何ト
中^上ト^テ之^體ヤ^ト皆^時猶^豫之^ハ件^間之^内心^一變^不改^也
由^目通^リ之^法由^信之^儀通^使之^由願^ハト^少之^學相^談
致^ル之^多ハ^是之^永之^私中^ニ有^ク之^混之^ハ之^ハ之^ハ
人^公此^相本^也由^信之^意也^之禮^也有^ル之^也又^ハ萬^里之^使
請^ヲ凌^キ本^國之^送之^儀ハ^何之^儀也^之儀^也之^儀也^之儀^也

在傳上(也)

一 右書内政兵川通使并一 勢兵白子奉美祿水口
二人共指ハテ老人ハ病死シテ由南通使必希ク名水口
新書ト中人共ハ臣今ハ世國ニ位ニテ帝王ナリ通使没シ
傳金三百五十枚ヨリ五日奉ク文字成教ル王政生智在
拾尺人預リ指ハテ是ハ各々官人ノ子性ニ世及私通使
勒ハ廢教トシテ令百平枚ヨリ重ハ世人傳國ニ代官役
器量能書成黃子能二人有想願ハ女子ヲ拾成事ニ重政男ハ
立奉リ中ハ南村格或能勒在在ハ世人彼地ニ在在在九言傳也
相知リ一統ニ甚重愛也事ニ重ク名水口を信ニ 亦ハ滅シ流ニ

別ノハ世國元下云傳志狀ホ私元ニ世教持事ハ一ハ若王連書
一 世及取之内ニ隨自王行ク所教有クハ世界ハ世國ノ人取ク
ハ是ハ本極クテ取ルルハ無ク生極クテ世ノハ其の形ヲ一切
不重其和何ノ事有クハ其政ケ極ク令行ニ有クハ其
世傳ハ其ノ人ニ重ク執親ニ重ク賜賜ハ夜酒ニ其日復造ニ及
天日ヨリ世ノハ其ノ寒國在何ノ百年ナリテ中ハ世通使
新書及以中ハ其ノ右何人南時改名ニホシタリキヤント中由右
弟國人ハ内ニ有クハ日本ハ百三千年以テ南極島ニ及シ
陸奥國氣仙取ク者世國ニ死云後ハ其ノ人ナリ其ノ
重一ニ云其容貌地ハ其ノ事也 亦ハ傳ニ拾ク之故ハ

九之劍破所由曲承之振あり物之傳をうねりて其内
海をぬる二面と人こそすべし

一日月ハ遠く南に見え北星頭と云り其南に在りて
見えし所は後ハ九月にハ九月に在りて
あかきく御字も海にハビセリホロカハ格別あか
きく見しハ振らざる

一帝王所遊後トシテ凡船ヲ振ふるも凡船ハ凡船
は多程と貴船ニテ御ありは後ありは後ありは後あり
舟舟ヲ往舟ヲ往舟ヲ往舟ヲ往舟ヲ往舟ヲ往舟ヲ往舟ヲ往
舟舟ハ時々風も多梅何方ありともて行と止所ハ後

大なり帝王所遊後トシテ凡船ヲ振ふるも凡船ハ凡船
は多程と貴船ニテ御ありは後ありは後ありは後ありは後あり
舟舟ヲ往舟ヲ往舟ヲ往舟ヲ往舟ヲ往舟ヲ往舟ヲ往舟ヲ往
舟舟ハ時々風も多梅何方ありともて行と止所ハ後

一芝居海を丸作りの硝子障子也障子土間を櫓有
活ハ腰ヲ掛見物するは後ハ方後言ハ大幕無ク

内ニセツ有女幕をそり揚り日本ノ角力ノ場々如ク
家ノ内ハ丸作りの女形ハ女々如ク物之極言ハ船ハ一切方
一少人島ハ人々人帝王ニテ石地至トシ大幕大幕人々

一箇ニ久安箇ノ重ハ一む教まじは是凡作公法ハ同
り年ハ平七ヤト取ハ一辨中人島ハ鞍籠ノ世は女々

之世取山は此者ハ長年トヤウノ

一 骨年率少ハ長年トヤウノ歩ノ人ハ多ク入京
日氣数不集遊山ノ男女群集ニテ樂ムハ水車ノ振
半トノ人ヲホセテ追後也何事モ是ニホセ其ハ酒者其
南好持手ニテ顔モ遊ムハ何國ハ日本ニ所ノ水車有ク
揚子江掛妻ヲ粉ニテ攪シ

一 海船ハ少シ有蛇ハ不見下也貝類ハ一切有

一 筆盤ハ五五十三上下ニテ拾有

一 鳥ノウチノ島有十三黒ニテ頭ハ白ニ鳴聲ハ鳥ノ如ク
如ク志ありあり

一 形ヲ遠ルニ本ニテ骨ヲ組歎ク皮ヲ張ルニ此獸牛ノ如ク

海中ニ位ノ角ノ長サ約半運有象ノ牙ニ似リ長クニ
テハ多ク有是ヲ象牙ト云テ高トハ小形ニ極無ニ楫斗リ
用ル

一 帝廷ノ涼所本由長サ拾七里引繼テ海及ク其中心切
石ヲ友此ハ方ニホ七里ノ引通ニノ地有水流ルニ例ノ鳥
深ク松林有同里程ノ深ク中程有南ノ方同里程ニ
色ク極木有群方松橋柳松ノ類ニ極木群ノ木有
硝子ノ硝子ヲ引通ニニ之英ハ星テ極木ノ見ハ遠極ニは樹
有極ノ自ヲ爲スルノ其あり

権衡ハ棹ノ志申ニ紐ヲ舞テ四方ニ貫目申乙
有ク天祥シ

一帝王ノ御幸ノ時通テ道初ハ性柔ク志申ハ幅二分
半程ニ切石テ田家ノ者世上ヲ強クシテ一兩服ヲ性來スル
ニ由奉クシテ人苗ホ無ク証明降キテ吃物北テ通行シ

一龍王ノ菩提所ニ寺ノ乘運柱ハ水晶ナル申大ハ尋斗
ニ見受ハ在サキ又糸由リテ下後リニ匠乃ハ布尊又
七尺ノ寸銀ノ佛トシ神カ佛カ一切相奇ルヤ中ハ

一遊女阿多乃家他ホ善美ヲ習ヒ法華生んニ云後
飛玉瀾脚ノ風俗一入列ニ松ノ傍見母ヲ懐キ飛云

一舟カト云看是ハ日本ヤリテト云ニのノ竹翁萬ノ取持テ
益ルモ各法何國モ同シる由座ニ至リ夜具ホ極美
錦ノ類ニ裏ハ銀ニ皮ヲ付ル極ハ五尺ノ寸ニ由定
法ノ松ヨリ少寸短ニ其左ハ瀾脚群ニシテ短ニトシ
仕物メテ文ノ時キヲ一切ホセトシ是ハ初令ニシテ客下
不礼甚テ思テハ中夜重ル時ハモテ又ナシトシ日本ノ遊女
場ホテハ初メテハ下細ヲ不解是ト同度ノ如持集ル由
通使ク人ヲシテ又一流國極ニシテ勢礼ホ無初ナラ座入
時モ女ノ方ヨリ一切手ヲ去トナリ是ハ一生連席ホキマ
セ致クシテキニシテ思ノ信ナリトシ

一 群世國に群人の列原を原放逐し戯し遊する好思を
也欲海を國に多る海幸は勿孔恨も多る要る也
陰氣海を國に自抑人勿毛も地角を教り也

一 牛類一切毎々

一 フロミヤ國に云々

一 一トウニニヲトウニヲラレイ四ヲチヤウライスヲビカンニヲセイシ

七ヲセイムハヲコセム九ヲヤウエ十ヲセイセツ百ヲロツチヲセイセツ

金を牧ヲセイソロウト銀を牧ヲセイセリフロ銀を父ヲコセシカヘカ

一 金 ○ 指はシト福厚ニ 表ニ王ノ名背表ニ世金ノ出タル歴代

年早う有

古く金子等し必程枚程定指系枚の形長條は改く上

世の形は江戸令多枚は限は世付業は世通は世止上ケニ

古海の中

一 銀 ○ 指は身寸迄原に右向の表裏名同り

一 錢 ○ 指は元無 指は元海 指は元下 又元海 指は元長

又二元海 指は元又二元海 指は元又二元海 指は元

一 日輪ヲソシソ月輪ヲソイセツ 雨ヲトウシ風ヲホコタ

火ヲヲキニヤ土ヲチムラ

一 王ノ名ヲクキサンタラハウテイ市ユクナリ役人ゴロシニテ申上ルホ

言るヲソカシウ 聞流い云あツカセウ人ヲツテ家ヲ

一病は聖旨是返す由礼中世安ヲ出さし西重魂宗
を家内之者不抄其菩提所也彼系信之日本之益トモ云ハ

一右之國用涯ハ夏者三テ万一他國より歌云船ヲ埤
多東んる方時ハ石火失火者六拾挺仕掛至其擲役凡
利五而幸りト取リハ麻糰トトキサ四リ少大ワ守該從武
概凡の本ト其自凡六而各目トトモ外ハ中船少船船多
有之申船ヲ千人系小船ヲ五百人系何事モ軍船ト稱在
ハリカウツカニ洋島中外國ヶ歌之兩度度押考別海陸使
ヲ立テ防戦ニ追教ニ何事モ權利トシテあり

一ヒセリホロカラ 亥六月十五日由多川船 系道信三子五里系リ
ハトモ夜カナシタトヤ新ト着波ハ

一カナシタ大漆之型二十日世也テ元船ニ系接リ 同十八日カナシタ
此船後ト多海上未申ト後海は道二千五百里走リルテ
コツベイカワニ着世コツベイカワハ別國之ダツケ共云國ニ任ス
世所家殺凡万形種有之由諸國之商人船出入大漆之
船之危之地ニ家地モヒセリホロカト同極之寒國ト云申
北ノ大山ヲ當南方一方口所處ヤ少長軍ニテ將女多ニ
私を安事ハ私モ世所ニテ不持ハ不交易改又世所ニテ大漆
小麦魚藏之飯料ホ不足ト積是日年七月十八日由船

アキリツケト申所ハ未申ト是海上道法千五百里余アキリツケ
別國ニテ一國ノ島ニ世所ト八月九日着家殺凡四千
五百軒有之由世所ノ都ニハ是ノ頃風ニテ七日路程
有之由同月十日由船カナリヤツケ海上道法千九百里余
己午ト走ル是別國ニ世所ハ九月三日着世國ニ馬十ノ厩ヲ
馬ノユトク格を日本ニ廉ヨリ取テ大キク角モニ本有之云
角ニ枝多有テ枝ニ枝カ付テ人モ乗テモ送送リする
之先ハ赤白又黒モ有世所ヨ九月九日由船海上道法千
ノアメリカニ千九百里北海中ノ土中程ニテ熱世界ニ去中なり
ト云信由コロシヤ國ノ松頭ニ中其日ハ海中ニテ皆ノ酒者ニ
大程致ル已午ト走

一南アメリカ國ノ熱路ノ天竺トモ云

アメリカノウチユカニ十ト云所ニ土月上旬着ス悉ク世不化
人ト云之男ハ象股ノ枝ナル物ヲ履キ腰ヨリ六裸ニ衣類
悉クス女ハ腰ヨリ下湯モジノ如クナル者ヲ履何レモ上ハ衣類ニ
腰ノ廻リニテ云々云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
胸ニテ踏及ハテホツ高キ如工造る妙あり世國ニテ暖國ニ
其斗至冬ハ多ク米大豆諸穀穀能実至夜水車ニテ
挽之海亦実至冬ニ或ハ死所ニ唐年ハ一度極テ之度花ノ
咲実法ニト日本ニ米ノ米ノ如シ米多ク其如何ノ唐年

みと務ニシテ凍死ニ食ス家他ハ石池モ有地本モ有屋根ハ概
ニ皮ヲ葺ク雨戸障子扱ク類一切無ク云々モ至別
世前ハ釈迦年厄佛之厄生海及修行山草年久安在
路亦之ト云又世所ニテ秋子延至ク地トモ云由

一 世所ニホロトカリツケト云國ノ人兼テ妻子ヲ持黒人ト交リ
ル人モ有此人ハ教色モ相傳モ十ホト至モ無ク能得此
國物ヲ有ケルト云右ノ人ノ子也白ク物ハ種モ異者ハ
一 椀ハ椰拵ヲ用ル者ハ不持匙ヲ用ル之本深減涼ハ生此
一 世國ノ様ノ也ハ出黒ニテ尾尾長ニ枝ニ彼尾尾ヲ切クみ付テ
好クリセ下リ山亀トテ六角之亀有甲二重ニ世國ニ在ケル

余遠處看水ノ氣ハ山薪本ホ然是海土道法高遠方
左用心者ト云椰形改万変多ク入亥ノ十二月廿二日所
出弦〇マリケイシカト云國遠凡一万九千里程トヤルニテ
非申ト迄弦改中ハ是ヨリ成亥ト迄リハ小人國
以之辰巳ト迄ハ女人國ト行クト中ハ其外諸之和國
方指ハ教ハ是是等ト云小人國女人國ノハ是等
傳ハ皆教ハ是是等ト云長海ノ上ハ弦改ニハ
取入ハ弦中ノ新本也ト云非ホ于新本ノ角ニ葉種多
出多私共ハ是是長海人多ク見ルト是ハ〇アメリカ
ニテ取入ハ新ニテ也

ス世國之人住古ハ每物ニ飢ル時修親子車也也
打殺ニ食すト云傳之ニカ今も諸國ノ交易時トテ自也
高航往來ニテ外國ノ他位ニモ見物ト思ハ有ルニテ
止人死ル時モ死骸ヲ割テ皆ニ打穿死スニテ會ス云
物ハ鬼ノ如キ國ナレハ恐入船取知ニテ人ノ指ル所ヲ
見所ノ船ヲ奪テ水ヲ投程ナク人出來ル者彼人モ船ヲ
奪テ一トスル虫矢打也ト云傳ニテカノ同也ト云云
極々急キ船ヲ沖上テ出トシ世也ト云傳子も後ハ急キ
一カムサツカ世間ノ海上及法生急ト云傳世所ヲロシヤ國ノ
死テ代官傳ス世所ハ去年ラニテライツテヨリ商人船ニテ
ヲホコツカハ送ニ時世所沖合ヲ通リニト大妻中妻ヲロシヤ
ヨリ送り由テ少ク有甚ハハ歎息ヲた會トスルニ世所人
ヲカニシヤト云世地アリ松本ノ海上續先和トト松本ノ
箱之速日叙ナ日後ト順風ト云傳走ハ急船スル由世所ニ日
程速ニテ子ハ月廿四日船辛一日自本國長濱ト云傳
流ル世カムツカヨリ長濱速ノ海上ハ東海ヲ通船スルカ
ト云ハ海申テ見ル所ト西ノ方南テ陸奥國金花山
出テ見ル所ト云傳氣氣ト云傳枝取ト云傳相見ト云傳
國船中人取ト云傳人ト云傳天文船ト云傳醫師ト云傳
人育テ船中ト云傳何ニテモ不自由ト云傳ト云傳

将之極之のより方之能風時化ナトニ述ル其ハ能風時化
指命スルも又順風ニテモ能風ニテモ能風何所迄吹下云々
凡雨共々急交スル也一云所ナシキ事連々陣を舟の時ヲ
得リ見極テ行程ハ前日ノ心は重ト右子八月十日船
い〜古日程走り出ル天文者ユリカテニトカ人遠自後ヲ
也ニ是ヨリ西ニテキ山見ル是何國ノ國ノ山あるト私先
ニ述ル也少少下見ル也後述ニテ山相見ル山ノ形ヲ
一切無キナル事お奇なり中ノ由リルはそニ何國ノ山ニ
知シテ能モ能風ニテ後世ニ述ルハものト大キニは知ル
有ル者ハ何國ノ山ニテハ何國ノ何國ニテ有ル事ハ

はハ阿達ノ北ニ薩摩國ノ下ニ有ルマヨリ陸ノ山也
船ヲ寄テ長崎ノ方ニ航シニ案内ヲ知テ入口ニ一晝夜
航シ去キリ余江指ル長崎ノ方ニ船ヲ移シ去リ
何國ノ船ナルハト尋ズ〜ハ以テ長崎ノ人ニ航シ
陸奥國仙臺石巻津毅船平ノ元船指ル人余去ル實政
五年丑ノ十月廿七日石巻出帆波能風色深流ノ〜
ヲロニヤ國ノ海岸有ル國ノ下意懸ラハ世々中國ノ下ニ
出帆出ル也其ノ中ノ上ノ事ハ中ノ事ハ下ノ事ハ下ノ事
ニテ元船ヲ移シ場ノ名カニ改テ〜少船ヲ去ル〜
又其船ヲ乗リ其内波行ニテ下中ノ事ハ改テ〜
小澤船

後岳其真日ヨリ長海ニテハ海陸ノ古徳者ニシテ

一ヲ口ニヤ國モ一里ト云ハ七尺ノ長トシテ其南ノヨリ長ノ山トシテ
是日物ノ寸尺ヲテ五尺八寸ノ間トシテ一ノ千方ニテ
九丁ノ山ノ名トシテ

帝云帝王ノ御涼城ニ格七里ノ川續テ有城ノ幅或百尺
右ノ城陽ノ城石垣ニ多物ノ高サニ尺寸尺ニ有左ノ守
城ノ城城ノ大城ノ水ノ海ノ之ヲ守城ノ池ノ水庭ハ石
ノ多クニ南ノ方ハ同里教テ硝子ノ硝子ヲ之海ノ園
後ノの植物ノ多ク見下透テ身屏物ノ多クハ海ノ物
園ハ西ノ山ノ葉ノ類畑作リニ由リ箱ノ極ニ其硝子
硝子ノ硝子ノ上ノ硝子ノ硝子ノ硝子ノ硝子ノ硝子
あれハ少シ製硝子ノ食ナクハ硝子ノ硝子ノ硝子ノ硝子
一本ハ硝子ノ多クニ其硝子ノ硝子ノ硝子ノ硝子ノ硝子
他國即チ硝子ノ硝子ノ硝子ノ硝子ノ硝子ノ硝子ノ硝子

暖氣の内稼多し用之致し極寒なりゆは和らむ物
心掛を少く身掛を多しと云ふは海より中へ入
ちし病ヲ治すものも此なり

一 町家作方の二階作し町は皆二階作し也又三階作し皆三階
造り中か代負福多抱一統の形ヲ長造り川寺モ失決
町家同有る形モ家造造は

一 フロシヤ國ニテハ下モくハ朝起テ青粉ニ候ヲ食ス夫野山田
畑ノ仕業ニテ是迄造り食する致ス休ノ家ノ内より戸も之
くきく候ヲメテ夫婦体是ス又家内大幣有家モ殆く夫婦
ノ備百ト入内ヨリ候ヲあり一豆中体も又ハ夫婦ニ

將更ヲ波一應トする又他ノ人ヲ入別百夫あるもの

一 イリカウツカラ亥二月七日出立七千里ノ間道中四十九日自小
ヒセリホロカニ着波ノ世道中ハ前ニ書不通箱より少物あり
身人宛の糸テ馬ノ尻冷ヲ付鳴着或十丁程ニ寄エモ着
以候場より人馬を南ヲ波差交々多しる所少も体も多し
車ニ乗ル者キニテ物ニ各大きニ物多し是なり

一 カナリヤ國ヲ亥九月九日由秋波同十月上旬南アメリカニ差出
世海中ノ中ニテ七曜星北辰ノ一切を見下す不審ニ思ふ候
日本ノ人ハ急事有るトテ大きニ物ヤルモ時ハ急ニ面目を失ハル

一 亥十月十月アメリカニ逗留ノ日暑サ凄兼松去毎日七八度

宛ありアビ凌キヤル。西礼志。孝礼抽杯會。以。之。夜。二。度。自
みなり。由。ニ。テ。抽。ハ。未。々。青。ク。也。産。ル。

一 アメリカラ。亥。十二。月。ホ。三。日。出。航。海。中。道。法。方。九。千。里。奈。未。東。
乞。リ。マリ。テイ。ツ。ケ。ト。子。四。月。四。日。着。航。世。留。く。後。海。テ。子。二。月。
下。旬。迄。四。日。程。く。留。ハ。空。々。内。空。一。面。之。景。を。見。ル。

一 マリケイツケ。テ。女。不。義。有。時。ハ。女。人。國。工。流。罪。ス。ルト。云。々。
フロ。シ。ヤ。人。共。私。に。ハ。常。ル。の。画。工。ニ。云。ルト。お。た。な。を。航。ル。年。り。也。
見。出。る。中。く。た。航。事。控。テ。相。互。に。國。ト。ハ。不。考。ん。航。沖。下。相。能。
見。出。る。男。女。大。勢。お。来。り。ル。航。男。ハ。多。ク。女。ハ。多。ク。相。見。
ル。ハ。保。姿。云。見。若。及。皆。丸。裸。テ。四。五。人。元。航。道。來。り。仕。方。ニ。テ。

交易ヲ。定。ム。者。孫。子。ヲ。見。ル。亦。男。女。共。之。強。門。ヲ。子。辰。モ。見。若。
者。航。之。航。中。ニ。テ。忍。弟。一。回。ニ。笑。出。ル。ハ。是。也。航。之。航。中。モ。多。ク。
佛。之。形。ハ。人。ニ。テ。教。ル。者。も。無。く。國。ト。相。見。ハ。ハ。シ。ロ。シ。ヤ。人。ノ。内。ノ
若。キ。者。共。彼。大。衆。女。共。ヲ。航。エ。入。也。之。航。ハ。は。は。男。た。る。者。
一。切。多。稱。を。唱。へ。無。く。航。之。航。中。ニ。後。若。航。改。見。若。メ。大。切。く。
日。本。人。送。り。居。テ。令。ヲ。蒙。リ。シ。者。ハ。テ。志。根。者。也。居。ル。者。
ト。大。キ。ニ。呵。リ。申。し。追。お。セ。ト。ヤ。付。ル。は。は。呵。ル。者。ハ。相。分。り。ぬ。也。
皆。航。中。エ。航。道。通。り。リ。ト。古。お。く。航。子。ヲ。航。ハ。ハ。不。義。キ。ノ。控。
航。ハ。テ。多。ク。ト。モ。相。見。之。者。ハ。高。類。同。衆。ノ。趣。也。云。々。ハ。
一 亥。十二。月。ト。旬。ア。メ。リ。カ。ニ。テ。水。板。船。上。ル。テ。子。四。月。上。旬。マリ。ケイツ。カ。

着新述何國トモ新考テ中ハ船中ハ有ラ遊イ切ハ子
大人ノ居合テ所見合水ヲ扱コトリハ何ト見ル者ハ
大人ノ中ニテモ金ヲ取ル者ト遊ル足ハ新キ船ノ述カ遊ル者ハ
急ニ水ヲ扱ル者ハ大ニ集ル者ハ遊ル者ハ
彼大人共ク元キ船ニ遊ル者ハ大ニ集ル者ハ遊ル者ハ
易ク遊ル者ハ元キ船ニ遊ル者ハ大ニ集ル者ハ遊ル者ハ
此ハ酒ヲ取ル者ハ遊ル者ハ大ニ集ル者ハ遊ル者ハ
免ス若シ其ノ遊ル者ハ遊ル者ハ大ニ集ル者ハ遊ル者ハ
礼ト捕ル者ハ遊ル者ハ大ニ集ル者ハ遊ル者ハ
遊ル者ハ遊ル者ハ大ニ集ル者ハ遊ル者ハ

此ハ遊ル者ハ遊ル者ハ大ニ集ル者ハ遊ル者ハ
子ハ女ハ肩ヲ取ル者ハ遊ル者ハ大ニ集ル者ハ遊ル者ハ
物ヲ取ル者ハ遊ル者ハ大ニ集ル者ハ遊ル者ハ
皆ハ遊ル者ハ遊ル者ハ大ニ集ル者ハ遊ル者ハ
相シ遊ル者ハ遊ル者ハ大ニ集ル者ハ遊ル者ハ
希ク遊ル者ハ遊ル者ハ大ニ集ル者ハ遊ル者ハ
ハハ遊ル者ハ遊ル者ハ大ニ集ル者ハ遊ル者ハ
ヲハ遊ル者ハ遊ル者ハ大ニ集ル者ハ遊ル者ハ
五ハ遊ル者ハ遊ル者ハ大ニ集ル者ハ遊ル者ハ
之ハ遊ル者ハ遊ル者ハ大ニ集ル者ハ遊ル者ハ

國ノ願國カキツカニ 志取致し

一 フリケイスケハ 椰沃山有之所ニテ水波九ニ時椰ノ散凡ニ平
 斗モ取ル能平ニテ應食波ニ長波也長波也持集波ハ
 私走又ヲロシヤ人ハ能ニテ枕割又ハ合遊ニテ折割食し
 物ハ如右ニ國人ハ能ニテ合遊ニテ折割食し
 平ニ乃也西平ニ持ヲ組合セ押平キテ食スルニ折割ルハ
 乃カ量ル能別ニ折割ルハ

一 カハサツカヲ出取車海ヲ走リ時ヲロシヤ人共遠月後ヲ以
 西ニ方ヲ見テ日卒ニ山ノ形ヲ備易ニ後折割ル富士山集ニ
 字及ニトテ志取ヲ入テ字ニ内國ニ如古産トヤノ

一 長波ニ着波ル長程ニ也尋ニノ有ニ凡ニ六十日程ニ
 終ニ停吟味ニ内ニは波所ニ也尋ニ此地ニ前程ニ野橋
 又董程位ニ離ハ見テ折割ニ再遊ニ也尋有ニ也尋
 在能ニ也尋又折割ニ也

一 津波人元江江内ニ住古ヨリ外國ニ漂流波也又ニ尋ニ
 世國上内ニ也尋多力ニ也尋其方共世及ハ波ニ日平
 下ラ廻ル能内ニ也尋波波は合ニ也尋下は内ニ

一 フロシヤ國帝王ヨリ日本國王ニ献上波ニ其品ニハ
 一 大鏡ノ有ニ金ニ象ニ也尋腹ニ内ニ時斗ヲ仕也尋
 一 硝子鏡を面大キ立三間横八尺厚ハ六寸余令ニ家ヲ

也右の事管く箱詰りて大切ニ扱

一硝子鏡或は眉或は髪尺幅の自恵枚於合口拾取右鏡上
ニ長條の改斗一切也受網多々如何の如く
此迄一は為経中由りし

一ヲ口平國ハ乃ハ年中振りの家して個重別百春の秋ノ
初メ染六物皮板の別熟印波國ニ生ユル

一弓ハ至而兼末年つら双物の金性魚皮切味を食

一彼國ノ婦人の角細ユテ長寸位牙の如く梅ノ鼻ニ穴

或本聰或本上下に平ノ牙結テ自持生れし如梅

礼式日又も客來おし時是ヲ御テ居る初テ見ル時ハ體ノ

牙生テゆりと為るのたはふ掛面解并に甲ニ毛入るヲ

致し居

文化元甲子九月長崎浪ユル内江表來出字之趣

魯南西船渡来一件

一苗月六日午ノ刻船度津南新ヨリ異國船を渡り見守
此後進下右船の方ヨリ進く進歩は速く紅毛船の
今更此中南江に在七時附カヒ夕ニ至紅毛人三人は是也

大小通使共例一途其如初夜以送之伴玉為近入届
其所言一通り正礼正座の如く口ニヤカニ相違無座の如く一通り
正礼の如く教も相違り上其夜ハ伴玉為の沖合ハ為禮正座
ハ中程ノ如く一通例ノ如く正礼ノ通リニテ亦ノ如く正礼ノ
少ニヤカニ通年系ノ如くハ大政正座の如く正座ノ人教
ハ推文ノ如く内ハ推文ノ如く口ニヤカニ正礼ノ人ハ仙臺願
彼國ハ漢民正座の如く右教中ノ如く正礼ノ人ハ由
本國ニテハ國王正座ニ相商りハ牙相ノ如く正座ノ人ハ正座
由正座ノ如く正座ノ如く正座ノ如く正座ノ如く正座ノ如く
一時整りハ正座ノ如く正座ノ如く正座ノ如く正座ノ如く

日本之言初モ少ハハ半奉ルカヒタシノ通年ハ初端能カキリ
以初先正初何カ奉リハ初ハ正座ノ如く正座ノ如く正座ノ如く
江戸國ハ一通ノ如く正座ノ如く正座ノ如く正座ノ如く正座ノ如く
正礼ノ如く正礼ノ如く正礼ノ如く正礼ノ如く正礼ノ如く

世ニ通五ノ一通ハ彼國ノ横文字一通ハ漢文如ク之の
ハ一通ハ和文之世文ニ章妙本ハ初ハ何レモ金泥ニ
相禮ノ如ク入禮ノ如ク正座ノ如ク正座ノ如ク正座ノ如ク
一先年蝦夷國ニ至ルハ中信牌正座ノ如ク正座ノ如ク正座ノ如ク
正座ノ如ク正座ノ如ク正座ノ如ク正座ノ如ク正座ノ如ク
入礼至ル大切ノ箱張之錦襪ノ如ク正座ノ如ク正座ノ如ク

本國ハ何處也私教河國何方也
 六月廿四日本國ヲ出帆テノマルエニ内コツベシハアカホリヤ并ツメ
 リカ列ノ内フラシヤ國ニ廻リ夫ヨリ南海ヲ廻リ南七月廿九日
 カムシツテカ國ニ至リ八月七日同所ヲ出帆波ニ三十一日ヲ經テ南
 國ニ着取仕音右漂民ハ南國ニ寛政五ノ年仙臺ノ西
 米ヲ積清和ノ風難風ニ逢彼國迄漂流波ニ至他人十人
 之内一人ハヲロシヤ國ニ病死ス他九人之内一人ハ彼地
 相所リ世帯人連波ハ仙臺領ニ風吹ク者津波使苗子
 六十歳を言々他ニ移居者室津波使苗子移居中内傳言
 日移居者ノ名ヲ一五名ナリ

- 一 右ノ通申上ノ扱又預を通是ハ自身ノ長妻ト糸向波ニ許里
- 一 元上及トノ船ニ由傳使達ニ移居被下任候事ハ此ノ由
- 一 一切得公ニ仕ル是悲ニ由直寄ニテハ相付テ候傳編判
- 一 志ニテ浦相尖ル由事ハ所為ニ書ハ由被下任候事ハ
- 一 武器玉藥亦御規定ニ通り由移居ノ儀ハ此ノ由通事ナリ
- 一 玉藥 二箱ニ箱 一 洗地 一 七條七丁 一 襦袢 一 袷
- 一 煽扇 一 六分箱 一 釵 一 七條七腰 一 月 一 長
- 一 釵 一 四條七腰 一 洗地 一 杖
- 一 右ノ通事ナリ
- 一 船ニ被下任候事ハ此ノ由傳使達ニ移居被下任候事ハ

又々川口に守

一 右ヲ見ヤ着取舟市中々強不大概更在江流の正案を以て
成物申入札商人強ハ人々舟上にお抱りしもの

一 諸方更名方ヨリモ吹役返々往々同言由役所江流
難大方あり別る往々由用者流志々兼多江江後
此中由有々強言返々々早打由名も去三岸一船人舟
未也由附上中々方人案々人教由名我船の船艘勿論々
更ハ流前々兼多由南由用志々更ト相見ハ由舟十日以
迄之船々教凡而余艘事志才一々船々儲り諸難難
言流之他々後返々々船艘者船は也人教何万人の

引難兼改之 一 群引合セり之 佐々々々人教由由南少
人々皆改ハ也也兼所由傍先例々々前代由幕上同打
取申々旗馬下指物也也也復ハ言流挑打竹夜挑燈海
名ハ諸々算ラ焚海中は也々船々備ラ之教万艘々船々言
挑打燈神々言ヨリ 津手由也々流前々由都々何レも
例々赤幕テ陸々彼山々手津岸々外四方八面有指
口々々由由夜ハ夫ラ為輝山川海陸一同之交器ラ由
前代事聞者守物也々是也

一 フロリヤ船々花屋九右番船陸陸地幕々内分立花船艘
相手々外々由由佐賀鹿前々大船是ハ外權之右々

一 高貴法法武在國及也

一 其法國北向後方一リユス國ト漂流はハ帝を古事也と見

一 他國何レノ地ニ連波ハラテ物々々々也

一 佛蘭國在東ノ品ノ何品ハ彼國進仕及公願ハ此座ハ

用ニ品ノ何品ハ此座ハ伊丹ノ品也

一 先年リユス國ト漂流ノ日本人船英國近連波ハ御格別

依年厚キ也故法ハ伊丹其帝船其地ト此神ノ役方ノ者

帰國ノ上相連ニハ他國也難有也

一 苗年日本人四人連波ハ

右者國王ヨリ棒書梅ヲハ送ニ苗年帝未朝ハハラロシヤ船

使節をレサソットトヤル者ヤ上ノ故ヲ通詞和解仕存不字

子ノ九月八日

大小通詞

今日神ノ此ハ使ヲ入ルヲロシヤ船来リ来リハ他國王

使節役人レサソットトヤ者又船改クルラセニステル

兩人ニヤ中立ニテ故ヲ来ヤ上

一 ヲロシヤ船を被曆教一千八百三年八月十日享和三年六月

廿四日同語出故テノユルカ内ユツヘニアカ。カナアリヤ島并南

アメリカ島内ヲラシヤ國吏ヨリ南海ヲ周リ曆教一千八百四年

七月十日

一 今般ヲロシヤ國使節ノ役人渡來は信義ハラロシヤ國王江戸

呈書 貴所奉行前下右之字を持来し候申出候所右之字
辨辨役人ト差出候所ト字ハ所本書者使布之者直ニ江府
呈上字書ハ所奉行前上右各之直ニ差上候所國王ノ令ヲ
請上何カ他ノ方者附屬物仕候中ニ速ク依之右呈
上之字相尋事ト先年於能其地信牌ヲ送り候所
P上之字今被使布ヲ以棒献具江府侍礼相勅以来
所由國ノ自國ノ信多ク法ト且交易之者ニ付ルハ勿願
候も所由候也

一 元般船政中ト云者常組八十五人内八十人ハ口ロシヤ人之
外四人ハ日本人之其和之者直ニ所者人ト毎所所由有日本人
等拾年々以テ口ロシヤ國上漂流仕候所國元留置世及
連渡候

カビタシ

ニテレキトナリ

右之字カビタシ兼ル所和解仕差上候

通詞目附

- 三島五郎助 今村豊寛 横山徳三郎
- 石橋忠寛 加福安次郎 馬場安八郎
- 名木玄吉郎 中山依三郎 本木広寛
- 今村金三郎

恭敬ノ白

一積年田園ヲ慕信義ヲ結友多額事好ハ世一書ヲ呈シ
 向後何事不取由用筋如及不取之第直交河為也右航
 通交易相望也於テハ亦屬國之内カテヤツタ地アメリカ内
 有之又アレウテトユヌカムシヤツテ地アメリカノ間ニ有之ニシレニス
 カムシアツテカノ意ニ有之信ハカニテカノ意ハカニテカノ意ハカニテカノ意
 教何由受也長崎津ヲ介之地上モ由是揮テ牙海未為致可
 中州者又向後其國之松亦國之内何之南ノ漂流は皆とも御
 差支なき指今入津扱物は松津ノ浦迄令之ハ至
 人ノ由田園何事津上茂連為渡下ハ為委御ハ使節リ
 ヌラレサットトハ由是皆ハカニテカノ意ハカニテカノ意ハカニテカノ意

- 一時仕込ノ象他物
- 一象牙細工物
- 一犬鏡
- 一鉄炮
- 一暎虎皮
- 一木小色

右者微美之至也得共自國之産物ニ任テ貢上仕ル
 御照内於此下者欣事至極奉存ルモ國産奇品亦可傳
 上院手奉存ル

王府ベシトルベク於テ即位三年六月三十日

フロシヤ國王アレサントル判

國老 フロソコトウ

右ラロシヤ國王ハ棒也書籍之重念尚希未願仕ル使當之
後ニユラレサノットナリ者ニ兼リル茲委細和解仕ル奉差
上ル必上

子ノ九月十日

目附
大小通詞連下

魯喬西國王下御返稱之字

一 亦因昔ヨリ海外通問ス諸國陸不少事之使且小不有
在者無不設而亦國之商船亦國下住ル所也事後
多件強ク陸亦自有同退テ不入陸唐山朝鮮琉球紅毛
之為性来るヨリ其市之利ヲ心也此ヨリ北に来るヨリ久

者素ヨリ其國首ヨリ之其國之如素々ハ未曾レ信ヲ通セ
無度ニ斗ニ前年亦因之私漂流之人ヲ連物来リテ
通商成之ハ今又長途ニ至テ好ク通ニ交易成用ト事
既ニ多年再及汝ノ亦因ニ不有亦切テ知リ然下
言尤也乞不ク通商通商之ヨリ重ク安ニ不ク成ス者
亦因ハ海外之諸國ト通問ス彼ヨリ既ニ久シ隣國成亦因
復スル事成ルカハ不有其風異ニテ事之情ニ至ルモ
亦懽心ヲ結ル長途ニ以テ亦成類スルカハ他亦不
通亦因曆世ヨリ封疆ヲ守ル者法之ニ事ク其國一併
之故ヲ以朝廷歴世ノ法ヲ可変テ禮ハ性来ラ尊今

此儀をりもて其の長崎に在る信牌ヲよむに御ん
今般國主ノ書ヲ持來りり、松本おひて論じたるを
雖も其の志より世に及ぶ政府を名ラ申論する事
特ニ新中々新水ノ料ヲ与ウ御ん上ノ事用進を亦りも
其多形ヲ察せ給ふに以テ地方ヲ歌述し屏帆定一
一足年ヲロシヤ人ニ推其地ヲ御後には遊一御ん

ロシヤ國ノ取立役長崎ノ事為るに及

爾等論ス旨ヲ象諾シテ長崎ト云ハス柵切母事
教ト其國ノ大業之其儀及テ器物書籍等持來
事ナカレ必書セラル、更ニ有世有悟道ニテ長崎ニテ其子細ヲ
管海スベシ猶研定ニテ上陸ヲモ科スベキ之為事也一紙ヲ
与ルり志あり

石川將監書判

村上大、学、日、判

政府ノ指揮ヲ奉シテ結々

寛政五年六月廿七日

信牌

石川左近將監分江渡

朱下

一文化二丑年二月晦日御目附遠山金四郎殿
右着日三月六日初テヲロシヤ人五人御役所

表儀彼戸揚方上陸波一使節之人等亦亦亦隨彼ノ
ヨロシヤ人五人附添儀持去人踏持去人等ヨロシヤ人等
固所波助ト其心道筋肥前鹿本大村三家ノ番所
而ト出来何レも金屏風弓張地傍り物既ノ和是收進
臣拾人宛相添メヨロシヤ人高官ノ人凡三拾才位下相見
髪ノ毛黒ノ衣類持装束ハ花色羅紗金ニ傍り有之
徑装束ノ様本ハ物ヲ擲川云美ク委物ト云云

一 所役所内ニ候列給島島ノ下ノ下ノ七月廿九日
二 所役所下無事ハ云云形所ハ事ナシ以後ハ日本渡海
波島及ノ儀書附ルハ江波列持領物ト云云

生糸 絹 五千抱 米 百俵 塩 五千俵

右以裁法作舟右舟ヨロシヤ人何モ献上仕及名ヲ入ル
是は受毒々々ヨロシヤ人モ行願難波名舟通同葉葉
左舟ノ水送り及由通舟中舟世々安海ニ去成列在ニ在
通同舟ノ受納波也

- 一 笠三間横八尺大鏡 一 今中々小サキ方鏡蓋面死
- 一 硝子燵子箱燭燭立 一 茶道具 品々
- 一 或尺三四尺程ノ確石四枚 一 羅紗 品々
- 一 小道具 品々

右ニ品々相送り何レモ儀様本あり同レ日彼國學院流

其卷下中如右辨之始末に至るは徳意實政三十五年矣固
之海に在る觸少強之准三取斗下更

右通万石之面之英之... 有之面之... 不降極之... 海名之順之... 勿以...

正月

右之... 書... 字... 附... 字

松平 兵部頭
小室 宗 龍 將監
石川 和 泉 守
中川 飛 澤 守
柳 生 五 郎 正

文化四年丁卯復魯音西ヨリ訖夷地ノ礼入ニ及

後初并彼地ト出張之日本人ヲ生捕送テ世方ト

相返ニル時中人合セテ書附テ字

一 世方ヨリ強テ日本ニ地ヲ定メ不有唐太ハ元來我國之領地ニ
然ニ是ヲ日本ニテ如何之存テテ失礼ノ沙汰ニ及ル世方及元
以來右辨ノ至不可首テハ上ト口ヲ礼入ニ及ル者右唐方ニ
返報ニ捕取給テ人石連ルニ文字不通言語おふ合別ニ付
不レ已年連テテ國日本ノ漂流被テ合セテ意味ヲ字
多邊振ニテ人ノ看共ト口上申合セテ多邊取礼又返報
可ナク也

和蘭人ノ言葉

親ノイラ	アザ	雜有ノラ	ヤイノイキイ	火ノイラ	アベ
母ノイラ	ハボ	川ノ下ラ	ベツ	水ノイラ	ハツカ
亭ノイラ	ラガイ	祢ノイラ	セウワフ	寝ノイラ	カツクミ
女房ノイラ	マウ	頭ノイラ	ボケ	飯ノイラ	アマシ
兄ノイラ	ユビ	耳ノイラ	キサラ	糸ノイラ	アマメ
姉ノイラ	シメコ	目ノイラ	シギ	湯ノイラ	セニガ
女ノイラ	アキヒ	鼻ノイラ	オト	汗ノイラ	ヲハ
男ノイラ	セカツ	大キナノイラ	ホロシ	香ノイラ	セツフ
女ノイラ	カサツ	小サイノイラ	ホシ	金ノイラ	メノコ

赤毛ノイラ	テウカイ	あもろノイラ	イニシタ	目録ノイラ	ヤシテラツイ
鴉ノイラ	シユ	椀ノイラ	イタシキ	アトウノイラ	ヤツチヤク
ヤクシノイラ	カホスシ	釜籠ノイラ	シマユマ	貴塚ノイラ	ヤシ
道ノイラ	ル	石ノイラ	シユマ	一里ノイラ	スチツ
犬ノイラ	セタ	魚妻ノイラ	ウエシ	持ノイラ	ホロ
遠下ノイラ	ホシケ	物食ノイラ	イヘン	二里ノイラ	トツフ
遠近ノイラ	トイウ	キタナキノイラ	イチヤキリ	来ノイラ	アリキ
衣類ノイラ	シズ	橋ノイラ	イヘン	三リノイラ	レツフ
帯ノイラ	クス	いさノイラ	カツタ	梅ノイラ	カルスル
家ノイラ	ヤカタ	死ヌルノイラ	ライ	四リノイラ	イ子ツ

五ツラ	アキ	ラフツラ	ヒクカ	陰門ヲ	ホキジ
六ツラ	イハシ	焼物ヲ	ツク子	上ノ年ヲ	アキカイ
七ツラ	ウハシ	酒ヲ	アツサケ	今日ヲ	タシト
八ツラ	トベン	小酒ヲ	ヤタサケ	昨日ヲ	ニシヤタ
九ツラ	ス子シ	キセツラ	セシラ	昨日ヲ	ラヤスシ
十ツラ	ハル	吾ツラ	イリウ	タノツラ	ヲクフ
名ツラ	ヌマ	ほれたラ	子ヤウタ	夕ニ来イト	タノクフ アクルキ
神ツラ	カモイ	ワカヲ	コチヤク	物ヲ食たる	クライ
侍ツラ	ニシハ	茶ツラ	オヲツケ	田人ヲ	アイノト
服指	ニシヤモ	男指	ツケリ		

シ

東

海

圖

卷一

太平